

「いで・ごー」出発！

明るい未来を感じる“日出る伊手”をつくる
～自家用有償旅客運送の取り組み～

奥州市伊手振興会事務局長兼
伊手農村農業活性化協議会事務局 境田洋春

伊手地区の概要

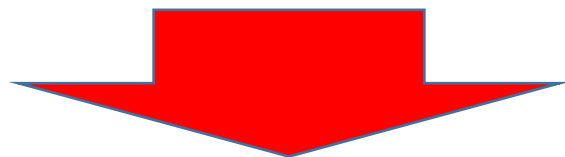
(1)地域概況

- ・奥州市の東端に位置
- ・雄大な種山高原や阿原高原のふところ
清流「伊手川」や湧き水などの水資源にも恵まれたのどかな農村
- ・約5,000haの広大な面積
山林 67% 農用地 8%
- ・基幹産業 稲作や果樹、畜産
- ・少子高齢化が著しく、令和4年4月に江刺南中学校が閉校して江刺一中に統合、令和5年4月には伊手小学校も岩谷堂小学校と統合し閉校、子どもたちは岩谷堂までスクールバスで通学



(3) 地域の現状

- ・急速な社会構造の変化に伴う「少子・高齢化による人口減少」
- ・生産年齢の縮小



様々な活動の限界を身にしみて感じる状況

[令和元年]

■人口
1,581人
■高齢化率
51.2%



[令和21年]

■人口
796人
■高齢化率
69%

※対比
元/令和21≒50%

導入までの道のり

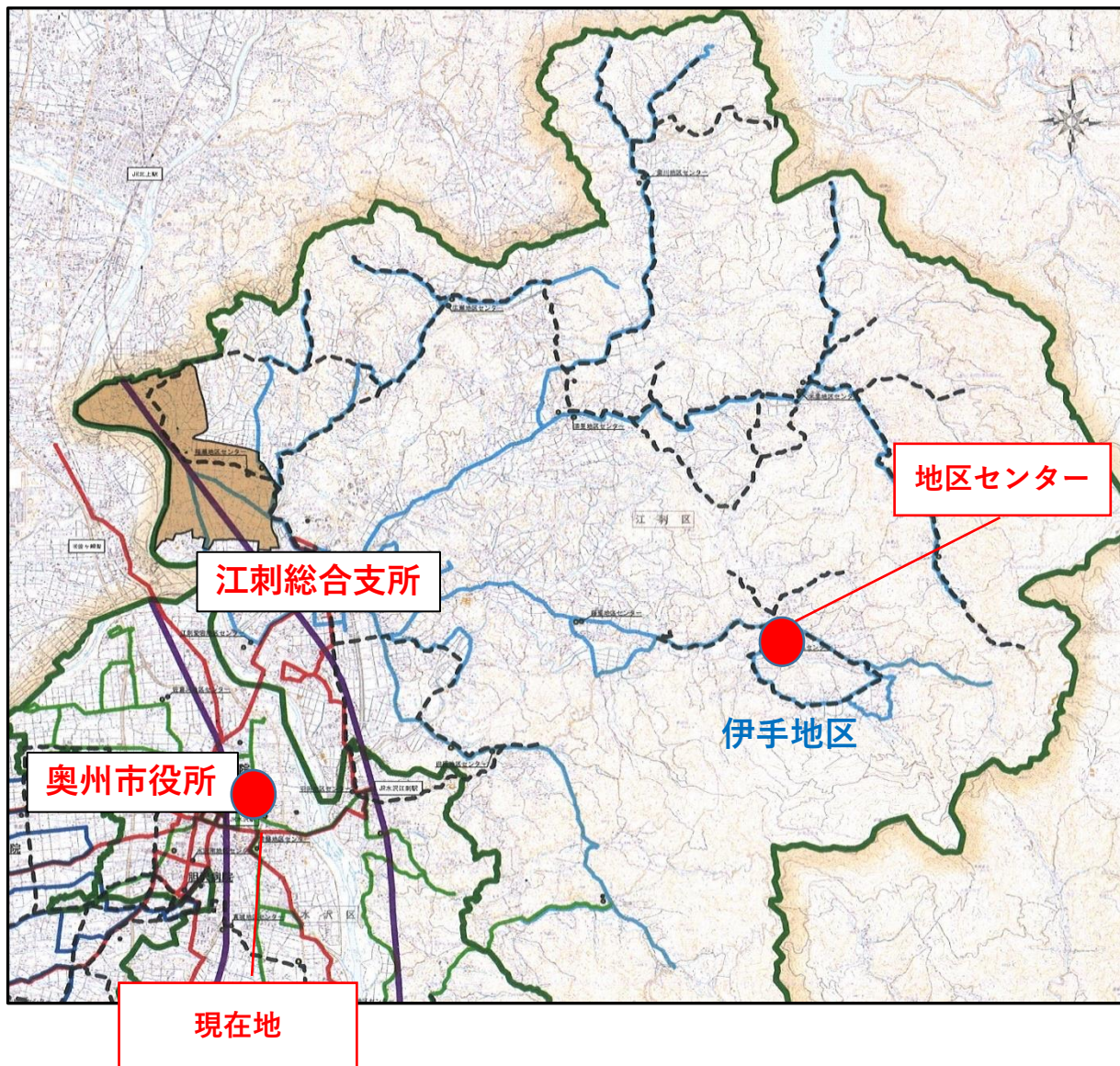
- (1)市から、市営バスの短縮案が示される
- (2)伊手地区コミュニティ計画への位置づけ
- (3)運行計画の検討・事務手続き
- (4)運行開始（試行運行⇒本格運行）

(1) 市から、市営バスの短縮案が示される

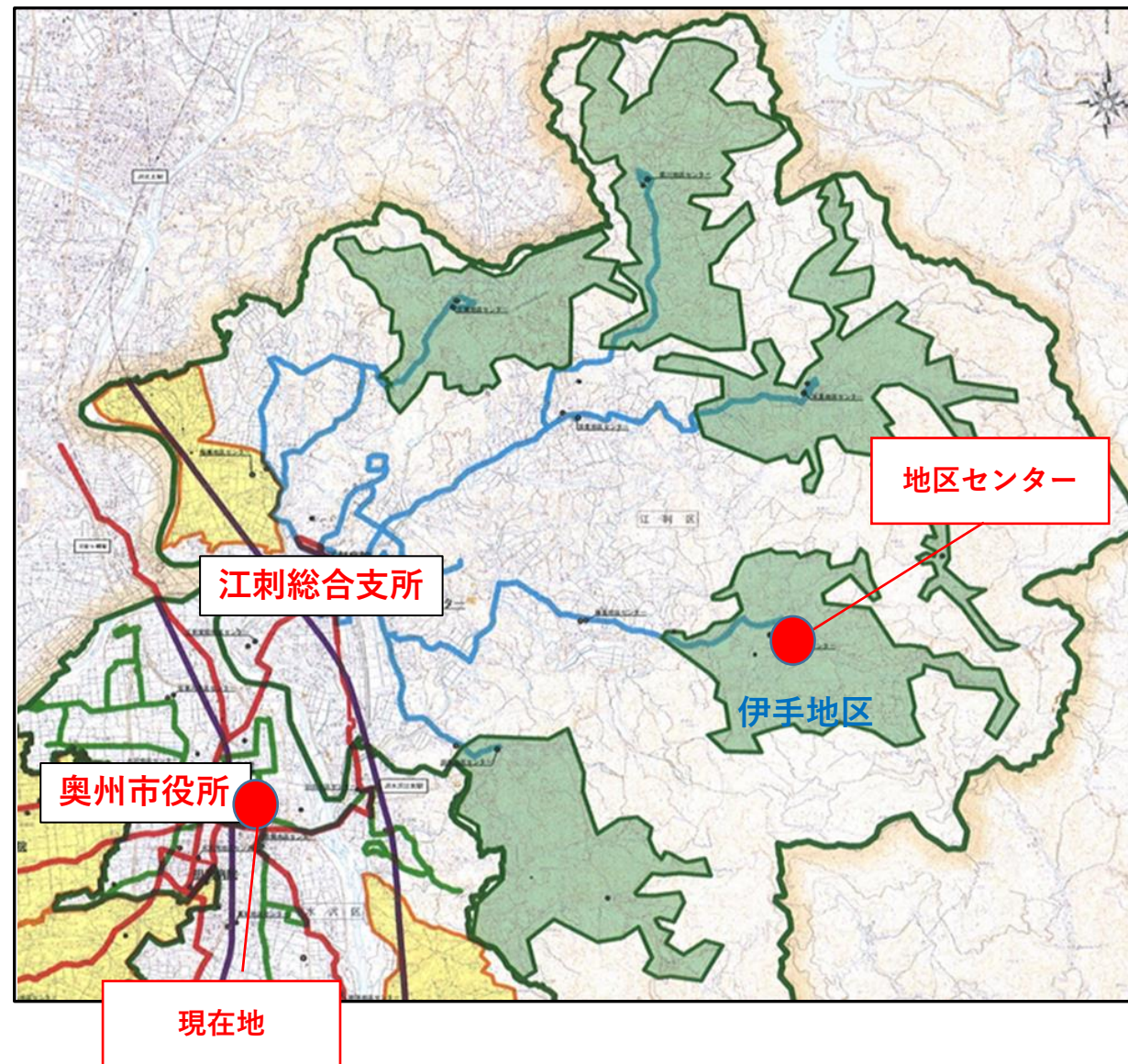
これまで、市営バスが上伊手地区まで運行していたが、
利用者の減少、運転士不足のため伊手地区センターまでの運行。

交通空白地となる部分については、
地区住民が運行する「自家用有償運送」導入の提案を受ける。

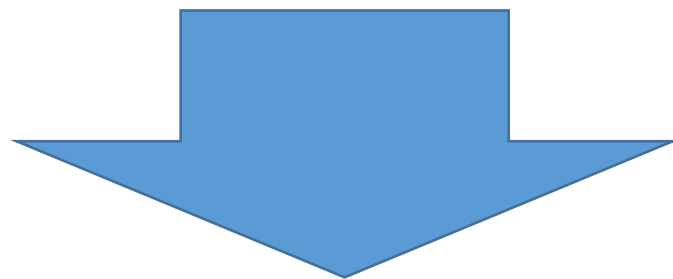
令和元年度



市の提案



伊手の将来に直結する課題・・・



自分たちで考えよう！

(2) 伊手地区コミュニティ計画への位置づけ

市からの提案を受け、「伊手振興会事業及びバス交通計画（地域交通）に係る検討委員会」（委員37名）を組織し、伊手地区コミュニティ計画への位置づけと運行対策を検討

※伊手地区コミュニティ計画

基本方針 令和4～13年度

事業計画 令和4年～8年度

【検討委員会の活動】

- ・ 全戸を対象とした住民アンケートなどの調査
- ・ ワークショップを実施
運営に当たってはNPO法人いわて地域づくり支援センター及び奥州市協働のまちづくりアカデミー卒業生らのサポートを受け開催 → 先進地事例の研修、勉強会の開催
- ・ バス交通計画については「交通分科会」を立ち上げ市の担当者も参加していただきながら検討

【交通分科会の活動】

- ・ 外出状況に関するヒアリング（R 3.1.26）
現在の外出状況と要望の聞き取りを4カ所を実施（路線廃止の4地区）
- ・ 地区内のタクシー事業者及び市に対するヒアリング（R 3.2.15）
タクシー事業者… 協力の可否・地区内交通を実施した場合の影響
市 … 事業内容と市の補助との関係
- ・ 第1回交通部会（R 3.5.12）
アンケート調査・ヒアリング結果の報告
今後の方針についての検討
- ・ 第2回交通部会（R 3.10.12）
これからの地域内交通の運行案について※概要案

ワークショップ



若者ワークショップ



外出状況ヒアリング



第1回交通分科会 報告・協議



約1年にわたる検討委員会の活動により

地域内交通については、

「伊手地区コミュニティ計画」の

特別プロジェクトとして位置づけ

4

目指す将来像と基本方針

検討委員会での議論やアンケートの結果から、「こんな伊手を目指したい」というたくさんの意見がありました。それらの声を束ねて、ここにひとつの目指す将来像を定めます。そして、その実現を目指して4つの基本方針と3つの特別プロジェクトに取り組んでいきます。

楽しく生きる未来がいい

健康で楽しい
老後もいいよね！

限界集落を
ぶっとばせ！

子どもたちが戻って来られる
ように伊手を残したい。

楽しい“ひとり暮らし”を
目指したっていいじゃん。

人が集まる楽しいパークの
ような里山って素敵だよね。



>目指す将来像<

明るい未来を実感できる
“日出る・伊手”をつくる

特別プロジェクト

- I 地域内交通
- II 小学校跡地活用
- III 伊手ブランド

くらす

基本方針1
みんなの安全・安心
を守る

つながる

基本方針2
3つの“わ”で
つながる 和・話・輪

まなぶ

基本方針3
故きを温ねて新しきを知り、
伊手の魅力を世界に発信

たのしむ

基本方針4
出会いを増やし、
楽しみの機会を増やす

5

地域づくり事業 ～3つの特別プロジェクトと4つの基本方針～

特別プロジェクト

- I 地域内交通
- II 小学校跡地活用
- III 伊手ブランド

現在、直面している課題として、市営バスの見直しが市から提案されていることと、伊手小学校の閉校後の跡地をどのように活用するかで地域の活力は大きく変わってきます。また、地域には他にはない優れた水資源があることも分かりました。特別プロジェクトチームを編成して、取り組んでいきます。

I 地域内交通

市営バスが地区センターまで短縮される案が市から提案され、代わりに自宅そばで乗車できる自家用有償運送の導入を検討することとなりました。地域として主体的に取り組むことにより、安心して暮らせる環境を整えます。



II 小学校跡地活用

令和5年4月に伊手小学校が閉校します。その跡地をどのように活用するかで、地域の活力は変わってくると考えます。いろんな活用に対するアイデアが出ていますので、より多くの人に関わり、地域の活性化につながる使い方を目指します。

III 伊手ブランド

計画を検討する中で、伊手には優れた水資源があり、地域内だけでなく地域外の人でも利用していることが分かりました。たとえば、“伊手水”として今後も地域内外の人が利用できるような工夫を講じることで、伊手の魅力発信、ブランド化につなげていきます。

特別プロジェクト地域内交通チーム発足

コミュニティ計画の中の「地域内交通の特別プロジェクト」として地域内交通チームを立ち上げ

○スタッフ 17名（自治会長、民生委員、主任児童委員）
アドバイザー いわて地域づくり支援センター 若菜千穂氏

○活動内容

- ・ 自家用有償旅客事業の実施
- ・ 送迎手段、運行ルート、指定乗降場所の設定
- ・ 地域内交通特別会計の管理